

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170201412), 法人名 (はまなす介護センター様), 事業所名 (はまなす介護センター光星), 所在地 (札幌市東区北13条東13丁目2番3号), 自己評価作成日 (平成25年9月30日), 評価結果市町村受理日 (平成25年11月19日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様が安心・安全、又、役割を持って過ごせるようお手伝いさせて頂いております。洗濯物やもやしの芽とり・掃除・ゴミ出し等、お手伝いをして頂き、今持てる力を発揮され、日々が少しでも充実したものになるよう見守りを中心とした支援を行っております。行事のひとつ、お誕生会では、入居者様の好きな食べ物を用意させて頂き、喜ばれております。6月には大型バスを貸し切りいちご狩りに行って来ました。天気にも恵まれ、家族様・町内会の方々にも参加して頂き交流を深めました。8月の施設の夏祭りには、町内会の方々にお手伝いをして頂き、おでん・焼きそば等を作り、入居者様・家族様と共に食べたり飲んだり楽しいひと時を過ごさせて頂きました。又、町内会のお祭りには施設側から出店のお手伝いの協力をさせて頂き、入居者様・家族様も参加し、パン食い競争・カラオケと時間がたつのも忘れさせて頂きました。9月の敬老の日には、寿司職人をお呼びし、目の前で生寿司をにぎって頂き、みなさま沢山召し上がって頂きました。又、散歩・買い物などにも出掛けられるようにしております。今後も地域の方々との交流の機会が持てるよう努力していきます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, URL (http://www.kaijokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou\_detail\_2012\_022\_kani=tr ue&JigvosvoCd=0170201412-00&PrefCd=01&VersionCd=022)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室), 訪問調査日 (平成25年10月28日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市内中心部近くにあり交通の便が良く、地下鉄の駅や商店街が最寄りにある住宅街に位置しており、四階建ての3ユニットのグループホームである。2階から4階にそれぞれ1ユニットずつ配している。地域との交流をはかり、お祭りや各種イベント等に積極的に参加し、地域とのかかわりを持つようにしている。また、施設主催での夏祭りなどでも、地域の人たちと利用者、家族が一緒に、交流を深め楽しんでいる。事業所の理念の下、利用者が心地よく過ごせるように全職員が結束し、情報を共有し、利用者本人や家族、医療関係者等との話し合いを行い、ケアサービスの実践を行っている。職場環境が良く、職員間のチームワークも良く、いつも明るい笑顔で接しており、利用者のケア対応にあたっている。また、利用者の健康を思いやり、栄養士による食事メニューを作成し、四季折々の旬な食材を取り入れたり、各行事食では事業所で話し合い、メニューを作成している。利用者の誕生会には本人の好物をメニューに取り入れており、利用者にも喜んでもらっている。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「しあわせになる」という事業理念を胸に、全職員で利用者様には日々充実した生活を送って頂けるように努めています。	事業所理念を全職員が見やすい場所に掲示し、また全体会議や各ユニットごとに申し送り、唱和するなどして職員間で共有し、日々のケアサービスにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者様とゴミ捨てや除雪をし、近所の方々とおいさつをかわし、又、施設の縁日には町内会の方々がお手伝いに来て頂き、利用者様と楽しいひと時を過ごされました。町内会の夏祭りにも利用者様・家族様・職員が参加し交流をはかりました。	町内会のお祭り等の行事に参加したり、事業所主催の夏祭り等に町内会の人たちに参加してもらい、利用者や家族が一緒になって参加し、交流を深めている。	町内会など地域との交流をはかる努力をしているが、より一層、地域との関係構築を強化するために事業所からの声かけや働きかけを行い、地域の一員として積極的に発信していくことを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で理解や支援の方法等を話し合っています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で近況報告して意見をうかがっています。	2ヶ月に1回運営推進会議が行われており、地域包括センターの職員や民生委員、家族等沢山の出席者で構成され、近況報告を含め話し合いを行い、ケアサービスの向上に取り組んでいる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市や区の担当者には日頃から連絡を取り、情報収集をしたり、協力して頂いています。	年3回の市・区の管理者会議に出席し、情報収集や意見交換を行い連携を深めている。その他、関係部署の担当者と密に連絡を取り合い、より良い協力関係を築くようにしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月1回の全体会議、又はユニット会議にて資料配布し身体拘束について話し合い、拘束しないケアに取り組んでいます。土・日・祝日・夜間は防犯の為施錠をしています。家族様には、すぐに対応出来るようにしております。	全体会議や各ユニット会議で身体拘束をしないケア実践を協議し、具体的な事例検討や研修などを行いケア対応に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の生活の中で、虐待と思われるような態度・言葉遣いになっていないか注意をはらいながら、利用者様と接しています。又、全体会議にて学ぶ機会を持ち、申し送り等で確認し、防止に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議にて資料を配布し、学ぶ機会を持ち活用できるよう勉強しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に家族様には安心して当施設を利用して頂けるように説明し、理解・納得をしてもらっています。契約時には不安が残らないように努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関や各ユニットに意見箱を設置して、家族様が気軽に意見・苦情が出せるようにしています。面会時にも意見や要望を聞いています。それらを運営に反映させています。	玄関や各ユニットごとに家族からの意見箱を設置し意見や要望等をもらい、あった場合は運営推進会議や全体会議等で検討、また面会時や各行事の際に家族より意見、要望等を聞き、運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議で話し合い、意見を反映させています。	年1回の面談や月1回の全体会議、各ユニットごとでの話し合いなどで、職員の意見や提案を聞きいれ運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者を通して個々の努力や実績・勤務状況を把握し、職場環境・条件の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設け、会議等で報告を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者研修にて同業者と交流する機会を作り、会議等で報告しサービスの向上を心がけています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めています。	入居前に施設見学・面談を行っています。利用開始時には利用者様の訴える事に耳を傾け、不安を取り除けるよう関係作りに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望を把握し、こちらで出来る範囲をお伝えし安心と信頼が得られるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他の施設から情報提供を頂いたり、家族様と話し合い、今必要としているサービスの対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いをお願いしたり、協力し合える関係を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様には毎月のお便りで日々の状況を伝えたり、行事に参加して頂き、共に支えていく関係を築いています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や知人の方々の面会や電話も自由にして頂けるようにし、なじみの病院・理容室などに行けるよう、家族様の協力を得ています。	馴染みのあるお店等へ出かけたり、友人・知人が週に2回位訪れたり、遠方者には電話をしたり写真を送ったりと馴染みの人たちとの関係が途切れないよう、交流を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が孤独感や疎外感等抱かないよう、スタッフが交流できる支援をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も施設等へ訪問し関係を大切にしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言動・表情を見て、利用者様の気持ちを読み取れるように努力し、希望にそえるよう努めています。	利用者の行動や表情、会話等から本人の思いや意向を汲み取り対応している。また、利用者の新しい行動等に気づいた場合は、職員間での申し送りや家族へ報告をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や利用者様から話を聞いたり、今まで利用していたサービス機関から情報をもらい、把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの生活リズムを把握し、その時々状態に合わせた関わりを持つよう努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状を家族様と話し合い、毎月のカンファレンスにて職員が意見を出し合い介護計画を作成しています。	家族の意見を聞き、話し合い、また職員間での協議(カンファレンス)などから介護計画を作成している。本人に合った長期・短期目標を設定し、確実にできるように細やかに個人記録として残し、現状に即した介護計画作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や変化・ケア内容を記録に残し、職員同士情報を共有し、介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に合わせて出来る範囲で対応しています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所の店に買い物に出かけたり、行事の際には町内会の方々に協力して頂いています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、家族様・利用者様と相談の上決めさせて頂いております。又、協力医療機関の往診も受けられるよう支援しています。	往診週1回、訪看週2回、歯科医随時と協力医療機関の受診を活用したり、かかりつけ医には家族同伴の協力を得ている。また、家族に同行してもらった場合の診察内容等に関しては報告をもらい、事業所で把握できるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回来ている看護職員に日々の様子を伝え、アドバイスを受け、受診・往診に活用しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には情報提供したり、お見舞い等で病状を把握し、病院関係者と連携をはかっています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、事業所として出来る事を家族様に十分説明し、家族様・かかりつけ医・職員で話し合い方針を決めています。	早い段階から本人や家族等と話し合い、事業所として出来ることを説明し、重度化になった場合は再度家族や医療機関等と話し合い、今後の対応を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故に関するマニュアルがあり、実際に行った場合、きちんと対応出来るよう心掛けています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	町内会・消防署の協力を得て避難訓練を定期的に行い、地域との協力体制に努めており、会議でも災害時の対応について話し合っています。	年3回避難訓練(火災を想定)を地域の協力を得て行っている。夜間想定も訓練も行っており、災害用備蓄品も確保している。	避難訓練内容が火災を想定して訓練を行っているが、他の災害をも想定した防災危機管理、避難訓練ができるよう期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	否定するような言葉は使わないようにし、個々に合った言葉かけや対応に気を付けています。	全体会議や各ユニットごとの接遇研修を行っている。利用者個々に合った声かけなどの対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や態度から自己決定が出来るように利用者様に合わせた声かけを行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースを大切に、出来る限り希望にそって生活が出来るよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や気温の変化に気を配り洋服を選んでいます。月2回来る理美容に希望にそった内容にしてもらえるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとり食べやすい大きさに切ったり、見た目でも楽しめるよう工夫しています。食のすずまない利用者様には、好みの物を提供しています。後片付けも出来る利用者様には協力して頂いております。	利用者の健康を思いやり、委託業者の栄養士によるメニュー作成をし、フルーツや季節の食材も取り入れている。また、各行事食も一人一人に合わせた食事メニューを提供し楽しんでもらえるようにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は記録し、利用者様一人ひとりのペースを考えつつ、飲水や少しでも食べられるように促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後水分をたくさん摂ったり、本人が出来る範囲で口腔ケアをして頂いています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握しチェック表をつけ、可能な限りトイレで排泄出来るように、その人に合わせた声掛け・誘導を行っています。	利用者の習慣、行動をチェック表に記録し排泄パターンを把握するようしており、できる限りトイレで排泄ができるように個々に合ったトイレ介護を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳等水分を多めにとって頂いたり、トイレを使用する時に下腹部をマッサージさせて頂き、排便を促すようにしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望やタイミングに合わせて入浴出来るようにしているが、体調不良により変更・中止になる事もあります。	週2回以上の入浴を目標とし、利用者個々に合った入浴介護を行っている。入浴が難しいときは清拭や足浴などを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	温度・湿度環境に気をつけ、安心して休めるよう工夫し、消灯時間は設けておりません。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	用法・用量・副作用を理解して服薬介助は職員同士で確認して行っています。変化があった場合は医師・看護師に相談しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自室の掃除をしたり洗濯物をたたんだり可能な範囲で力を活かしています。又、おやつ等で好きな嗜好品を楽しんでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は出来る限り希望にそえるようにしたいと思いますが、職員の人数等で希望にそえない事もあり家族様に協力して頂いています。	いちご狩りや各行事等に家族の協力を得て外出し、利用者に喜んでもらっている。また、日常的に近隣のお店に出かけたり散歩などもしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	おこづかい金として事務所で管理しており、必要な時はおろして使えるようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればいつでも電話をかけられるようにしています。又、かけたい様子の方はこちらからも促しています。手紙を出したり受け取ったり出来ます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や明るさに気をつけ、汚れて不快にならないよう居心地良く過ごせるように努めています。行事の写真やぬり絵をはったり工夫しています。	施設内の温湿度も適温、適湿であり、各居室内にも温湿度計を設置しており、利用者の健康管理に配慮している。また、四季折々の飾り付けや手作りカレンダーが各フロアごとに飾ってあったり、利用者の思い出の写真や似顔絵なども掲示してあり、心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・ソファの配置に気をつけ、食席も気の合った利用者同士で過ごせるよう工夫しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い続けてきた家具等を持って来て頂き、安全に過ごせるよう家族様にも相談しています。	使い慣れた家具類や馴染みのあるもの、好きなものなどを持参してもらい、住み良い居住空間を作り出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりを設置し、居室・トイレ・食堂などは大きな文字でわかりやすく表示しています。		